

平成27年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立西小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

学び合う子 思いやる子 たくましい子を育てる。

今年度の指導の重点

- ・基礎学力の定着を図り、学ぶ意欲を育てる。
- ・お互いを認め、支え合う集団を育てる。
- ・ねばり強く最後までやりぬく子どもを育てる。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

- 全国
- 国語A、国語Bについては、県平均と比べると正答率がかなり高い。算数A、理科も高く、算数Bについては、県平均と同程度である。
 - 国語Aでは、「言語についての知識・理解・技能」が県平均をかなり上回っている。
 - 国語Bでは、どの領域・問題形式でも正答率が高く、特に記述式について県平均よりかなり高い。
 - 算数では、どの領域でも一定の成果が見られる。算数A・Bともに「数量や図形についての技能」が県平均よりかなり上回っている。
 - 理科では、A区分「エネルギー」とB区分「生物」で県平均をかなり上回っている。記述式の正答率も高い。
 - 国語B、算数B、理科の最後の設問で無解答率が県平均よりも高い。
 - ・国語A「登場人物の相互関係を捉える」 本校58.6%(全国67.5%)
 - ・国語B「文章の要旨をまとめて書く」 本校89.7%(全国78.4%)
 - ・算数A「 $5/6 \div 7$ を計算する」 本校100%(全国84.2%)
 - ・算数B「切り上げて計算した結果が10000になることから分かることを選ぶ」 本校48.3%(全国62.0%)
 - ・理科「振り子時計の軸に用いる適切な金具を選び、選んだだけを書く」 本校75.9%(全国62.8%)
- 県
- 国語は、県平均を上回り、基礎・活用とも改善された。観点別では「言語についての知識・理解・技能」が高い。
 - 社会は、県平均を上回り、基礎が改善された。観点別では「資料活用の技能」が高い。下学年の内容も定着している。
 - 数学は、活用が県平均を上回ったが、基礎が県平均を下回った。
 - 理科は、県平均を下回った。観点別では「観察・実験の技能」が県平均より高い。

【学習状況調査】

- 「テレビ等の視聴時間」「携帯電話・スマホの使用時間」が1時間以上の児童の割合は県平均より低い。
- 「テレビゲーム等の時間」が1時間以上の割合は県平均より高い。
- 「1時間以上家庭学習をしている」児童の割合は県平均より高い。
- 「家で、自分で計画を立てて勉強している」「学校の授業の復習をしている」児童の割合は、県平均より低い。
- 「学校や地域の図書館に行く」児童の割合が県平均よりかなり高い。
- 「平日30分以上読書をする」児童の割合は県平均より低い。
- 「近所の人にあいさつをしている」と回答した割合は、県平均より低い。
- 「国語の勉強は好き」「算数の勉強は好き」「理科の勉強は好き」と回答した児童の割合が県平均より高い。
- 「自分にはよいところがあると思う」児童の割合が県平均を上回っている。
- 「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい」と考えている児童が県平均より多い。
- 国語・算数・理科ともに「調査問題の解答時間が十分ではなかった」児童の割合が県平均より高い。

成果と課題

- 成果
- 朝学習や補充学習で下学年の復習を取り入れ、基礎基本の定着を図り、各教科で改善が見られた。
 - 書くことの指導を継続し、国語や理科での記述式の設問についての正答率が上がった。
 - 算数科を中心に授業改善を進め、経年比較で算数の正答率が改善がされた。
 - 各教科の勉強が好きと回答した児童の割合が高く、学習に前向きに取り組んでいる。
- 課題
- 国語B・算数B・理科の最後の設問で無解答率が高く、児童の質問紙から「解答時間が十分ではなかった」ことがわかる。限られた時間で問題を解く力を身につけさせる必要がある。
 - 自分の考えをノートに書いたり、ペアで話し合うことはできているが、全体の前で発表することについては苦手意識がある。授業改善をさらに進めていく必要がある。
 - 家庭学習を1時間以上している児童は多いが、予習・復習を意識し、自分で計画をたてて勉強できるようにすることが課題である。

課題に対応した改善方法

- 学習規律の徹底
 - チャイム同時スタート、同時終了を徹底し、学習の準備を整えて学習が始められるようにする。
- 授業改善
 - 授業の「めあて」と「まとめ」をはっきりさせるとともに、学習したことをキーワード化して定着を図る。
 - 授業の中で、子ども同士で話し合い、自分たちで答えを出す活動を取り入れる。
- 基礎基本の定着
 - 朝学習や補充学習などで、下学年の復習を取り入れる。漢字週間・計算週間を設け、集中的に漢字や計算に取り組む。
- 読書・作文の指導
 - 学年に応じた読書指導を全校で進め、様々な読み物に触れたり、語彙を増やすための取組を行う。
 - 作文指導では、字数を決めたり、条件を付けたりするなど指導を工夫し、評価して返していく。
- 家庭との連携
 - 家庭学習の量と内容を工夫して習慣化を図る。基本的な生活習慣やノーマディアの取組を進める。

取組の検証方法及び検証時期

- 小3学力検査(3学期)、小4・小5学力学習状況たしかめテスト(11月)で検証する。
- 児童への学習アンケートを実施し、分析する。

平成28年度津山市達成目標に対する具体的な目標(数値目標等)

- 全国学力・学習状況調査において、各教科の平均正答率が全国平均を上回ることができる。